

ウラン試験で発生が予想されるトラブルなど

質問内容	回答
INESの評価は、事故を発生した当事者ではなく、第三者、中立的な立場から、国の委員会で評価するものである。今回の資料の判定では、国の方へ確認したのか。	INESの評価は、本来、国によりなされるものですが、事例集で紹介したトラブルなどの影響の大きさをできるだけ容易にかつ客観的にイメージしていただくために、当社の責任で評価を行い、事例集に記載したものです。
予想されるトラブルは、未然に防ぐことはできないのですか。	再処理工場は、多重防護という設計思想を講じていることから、周辺住民の皆様にご迷惑をかけるような事故の発生はないと考えています。 しかしながら、再処理工場は数十万点に及ぶ設備で構成されているので、トラブルをゼロにすることは非常に難しいというのが実態で、配管の詰まりや軽微な機器故障などが発生すると考えています。
ウラン試験で判明する不具合とは、具体的にはどういった事象が考えられるのか。	ウラン試験において、初めてウランを使用することから、ウラン粉末、または、硝酸ウラニル溶液の析出（結晶ができること）による配管の詰まりが発生すると考えられます。また、模擬ウラン燃料集合体を初めて使用することにより、せん断機における、引っ掛かりなどが考えられます。
平日と休日でトラブル連絡体制が異なるが、休日でも速やかな対応がとれる状況となっているか確認したい。	平日夜間、休祭日の連絡体制が平日昼間と異なるのは、夜間、休祭日には宿直当番者を置き、速やかな連絡ができるような体制を確保するためのものです。 ウラン試験からは、宿直当番者を増員するとともに、連絡責任者を宿直当番者の相談者として、近隣で待機させる体制とし、迅速な連絡に努めていきたいと考えています。
周辺住民に影響のあるような大きな事故は起きないと理解していいのですか。	再処理工場は、異常の発生を防止する、異常が発生してもその拡大を防止する、さらに異常が拡大した場合の影響を緩和するといった多重防護の考え方に基づき安全設計を行っています。 運転員などは、異常を発生させないよう、また、万一、異常が発生した際の対応について、教育・訓練を行っています。
要は、ウラン試験では大事故などは起こらないと理解していいのか？	いずれにしても、工場周辺の皆様に影響を与えるような事故を発生させないよう、安全を最優先にウラン試験を進めていく所存です。
「トラブルの復旧の考え方」について、再処理工場は原子力発電所と違って、工場を止めなくとも、一部建屋を隔離することで復旧できると考えて良いか。工場の生産を止めなくとも、安全上問題はないのか。	トラブルなどが発生した際は、まず、安全性への影響を確認します。安全性に影響がないことが確認されれば、設備構成及びトラブルなどの程度によって、試験運転の継続の判断を行います。 もし、大きなトラブルが発生した場合は、工場を停止して復旧に臨むこととしています。
レベルゼロしか起こり得ないということだが、そのうちアクティブ試験に進んだ際にハイレベルのトラブルも起こり得るのなら、トラブル対応策もハイレベルも想定しているだろう。まだ公表できないのか。	アクティブ試験時のトラブル事例集も今後整備していきます。

ウラン試験で発生が予想されるトラブルなど

質問内容	回答
ウラン試験中、セル内等でウラン粉末が配管等に詰まってどうしても取れない時はどのようにしますか？（空気を用いても取れない場合等）	定められた保守作業手順に従って圧縮空気、硝酸などにより、詰まりを除去します。 それでも除去できない時は、溶液の場合は、アイスプラグといって途中に氷を作り、栓をして空気を入れて詰まりを取り除きます。また、粉末の場合は、配管を外から叩くという方法が有効です。